

<図書委員オススメ本セレクション> Vol. 5

『横道世之介』 吉田修一

大学進学のため長崎から上京した横道世之介 18歳。嫌みのない図々しさをもち、頼みを断れないお人好しの世之介は、その愛すべき押し弱さや芯の強さで周囲の人々を惹きつけ、様々な出会いと笑いを引き寄せる。周囲の人々にとっても世之介との出会いは青春時代の大切な思い出となる。世之介の学生時代の1年間と彼と関わった人々の16年後を描き、誰の心の中にも、人生にも温かな光をともし青春小説。

2年男子

『涼宮ハルヒの憂鬱』 谷川流

これは、涼宮ハルヒという一人の少女がさまざまなことを巻き起こす学園・SF系の小説です。主人公のキョンは高校で宇宙人や未来人、超能力者や異世界人の存在を信じるといふ涼宮ハルヒに出会い、非日常的な生活を送ることになります。この本を読む前の想像を遙かに越えるような出来事が次々と起こり、とても驚きました。ハルヒの行動にびっくり、ワクワクさせられます。ぜひ、読んでみてください。

1年女子

『また、同じ夢をみていた』 住野よる

読んだら涙が止まらなくなる一冊です。たくさんの出会いの中で成長していく主人公を楽しめます。一生残る、感動のストーリーなのでぜひ読んでみてください。きっと心に残る一冊になるだろう、いやなるに違いない。

2年女子

『羊と鋼の森』 宮下奈都

この本は、一人の青年がピアノの調律師になるために成長していく姿が描かれています。調律の繊細さと難しさが文章で表現されていて、頭の中でピアノの音が聞こえてくるような読んでいて心地よい物語でした。また、青年は周りの人たちに影響を受けながら自分自身で成長していて、自分に置き換えても考えさせられました。

1年女子

『ツナグ』 辻村深月

「死んだ人間と生きた人間を会わせる窓口。僕が使者(ツナグ)です。」そう話す青年のもとには、様々な事情を背負って生きる人物が訪れます。人生に一度、たった一夜だけ会うことが許される生人と死者。その出会いは彼らに何をもたらすのでしょうか。本屋大賞や直木賞などの賞を受賞した著者が贈るファンタジー小説、是非読んでみてください。

1年女子

『シアワセなお金の使い方』 南野忠晴

もし宝くじが当たったらどうしますか？この文字を見て、私は想像してみました。全部使う人もいるし、貯金する人もいます。お金の使い方は自由なのです。この使い方自分らしさがでてくると作者は述べています。お金は人生でもっとも大事なものだと思います。この本は、そのお金についてのことが色んな見方で書かれています。

2年女子

『君は月夜に光り輝く+Fragments』 佐野徹夜

この作品は、君は月夜に光り輝くという作品の続編です。「発光病」という治ることのない病気になってしまった少女と、少女を好きになった2人の少年の関係のストーリーで、続編では彼らのその後が描かれています。生きることの難しさやつらさはあるけれど、いろんなことを悩みながら、少しずつ前を向いて生きる彼らにとっても感動できる作品です。

1年女子

『か「く」「し」「ご」と「』』 住野よる

ひとりひとり違う形で、ひとの気持ちがわかる能力を持つ5人。高校生活を送りながら、さまざまな悩みを直面して葛藤する姿が見えてきます。自分にしかない能力が、友人を通して自身の成長や発見に繋がっていく青春ストーリー。誰もが持っている「かくしごと」を温かく包みこんでくれる作品です。

2年男子

『ストーカーの心理学』 福島章

ストーカーは、男性が女性につきまとう行為という印象ですが、実際は、逆の立場になることもあります。その上、ストーカーにもいくつかの種類が存在します。実際に起きてしまった事件から、その種類とどういった特徴があるのか。それをこの本は種類別にわけられているので、とても読みやすいです。著者も被害にあっていて、そのときの心情を詳しく語っていました。

1年男子

『水滸伝』 北方謙三

十二世紀の中国、北宋末期。重税と暴政のために国は乱れ、民は困窮していた。その腐敗した政府を倒そうと、百八人の英雄が立ち向かう物語です。百八人というと多くて難しそうと思われがちですがそれぞれの個性が強いので割と分かりやすく、おもしろいです。

1年女子

『地球と宇宙の小事典』

家政則、木村龍治、杉村新、三輪主彦

この本は、主に地球と宇宙のことについて書いている本です。海水がどのように循環しているかや、化石について、他にも火山や銀河など、ありとあらゆることが書かれています。理系の人々にはとても興味を持つような話もあります。地球や宇宙、また、その歴史などに興味を持った人におすすめです。ぜひ読んでみてください。

2年男子